



常に前進、変化しつつあるトレイロの世界。今回は世界的な動きについて紹介する。

IOFトレイロ委員会新メンバー決まる。小山は留任。

7月の第24回総会後に開催されたIOF理事会において、次期(2009-2110)の各委員会(Commission)のメンバーが決定された。新しいトレイロ委員会(TOC)のメンバーは次の4名となった。

委員長 Sari Salomaa-Niemi (FIN)

委員 Owe Fredholm (SWE)

Taro Koyama (JPN)

Frank Kuhn (USA)

長年にわたってトレイロの基礎作りからWTOCの定着まで、その発展に寄与したAnne Braggins(GBR)女史はこのたび引退したが、彼女の功績は、世界のトレイロの歴史に大きく残ることだろう。日本もずいぶん世話になった。

また、関連のあることとして、Rule Commission(規則委員会)には、委員長+1名の他は、フットO、MTB-O、Ski-O、トレイロの各基幹委員会(discipline commission)から1名ずつが加わり6名構成となり活動する。

そのほかに日本からメンバーが加わっている委員会としては、フットO委員会(尾上秀雄氏)、IT委員会(羽鳥和重氏)があり、村越真氏がアジア地域進展担当としてその任につくことも決まった。

WTOC 新ルールも正式に…… パラリンピック・クラスも二日間 競技へ チーム競技もO+P

去る10月号でお知らせしたようにWTOCでの新クラス分け、および競技方法が正式に決定され、次回(2009)のハンガリー大会からの適用が決まった。

- 1) オープン・クラスおよびパラリンピック・クラスには、それぞれ3名の競技者が出場できる。
- 2) ひとりの競技者は、ひとつのクラスにしかエントリーできない。同一人がオープン・クラスとパラリンピック・クラス双方に重複してエントリーはできない。
- 3) オープン・クラス、パラリンピック・クラスの両クラスとも、二日間競技

となる。

- 4) 国対抗のチーム競技は、オープン・クラス競技者上位2名の成績と、パラリンピック・クラス競技者上位2名の成績の合計により評価される。

★このように、パラリンピック・クラスの競技が二日間合計の評価となり、競技意欲が大きく増すこととなる一方、2名のパラリンピック・クラス競技者が参加していないと国対抗のチーム競技には参加できないことになる。パラリンピック・クラスの競技人口の確保・増加が急がれる命題となってくる。

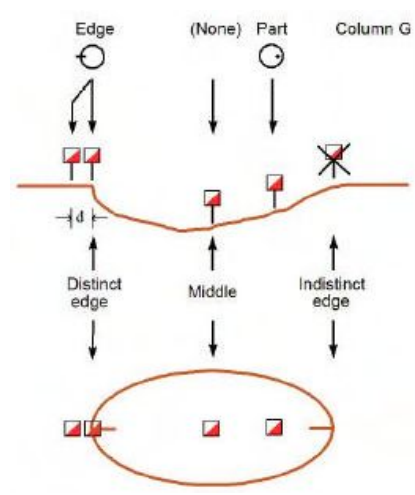
世界的な統一解釈を目的としたテクニカル・ガイドラインの発行

従来からコントロールサイトにおける語句の定義や、フラッグ位置の具体的な解釈については、各国がそれぞれ独自の解釈に基づき実施しているのが実情であり、IOFとしてのその統一解釈・説明が求められていた(とくにトレイロの後開発国からの強い要望が寄せられていた)。

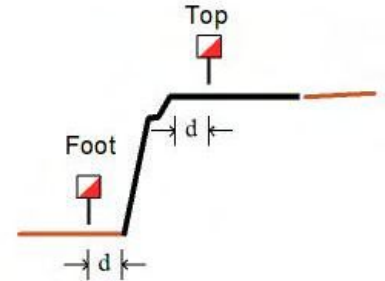
そこでこのたびその作成を試みたのが、先程IOFから発表された「テクニカル・ガイドライン」である。

内容のごく一部を紹介しよう。

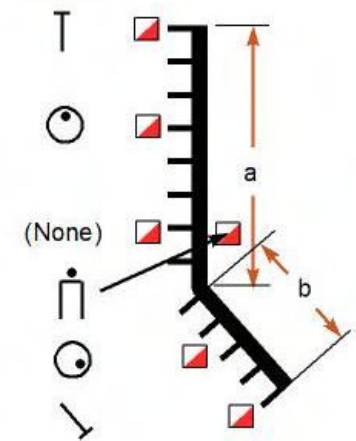
■凹地(Depression)に於けるフラッグ位置の定義



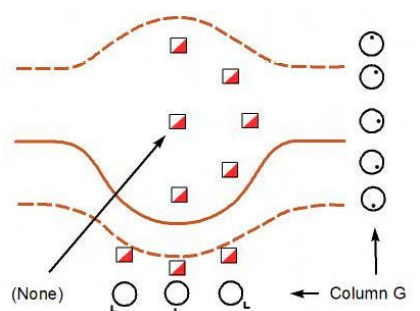
■岩がけ (Rock Face)



Column G



■テラス (Terrace)



このガイドラインは世界の統一解釈を目指す文字通りの「指針」であるが最終的なバージョンではない。今後、意見を集約し、改良を重ねてゆくものである。

なお、原文についてはIOFのHPで見ることが出来るが、現在JOAトレイロ委員会において翻訳中であり、近いうちに皆さんに見ていただける予定である。乞ご期待。

(こやま たらう)